

事業番号	15 08 02	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	社会教育を推進する施設の運営事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	生涯学習課	
		実施期間	S24 ~	E-mail	shogai @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

・新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域のつながりが希薄になり、学びの機会も減少しているため、オンラインなども活用し、学びの機会を確保するとともに生涯学習者を育成していく必要がある。

・県立長野図書館は、市町村図書館等へのサポートや、レファレンスおよび各種情報資源の収集・保存・活用において、ICT活用やデジタル化を図り、県民の知の拠点としての役割を果たしていく必要がある。

・少子化や核家族化、デジタル化が進み子どもたちの体験活動の機会の減少や格差が課題となっているため、青少年の健全育成に不可欠な体験活動の機会を提供し、体験活動の充実を図っていく必要がある。

2 事業目的

・地域リーダーの育成や公民館職員の資質向上に関する学びの機会を提供し、住民自らが持続可能な地域づくりや地域課題の解決に取り組むことができるよう支援する。

・サービス及び情報資源のデジタル化により機能の深化を図るとともに、市町村図書館や学校図書館、各種関係機関との連携を進めることにより、「県民の知の拠点」としての県立図書館の役割を果たしていく。

・自然体験活動の拠点としての環境を整備することにより、体験活動等を通じて子どもたちの「たくましく生き抜く力」や「自然を大切にする心」を育成する。

3 事業目的を達成するための取組

①生涯学習推進センターの講座を充実
オンラインと対面を有効に組み合わせながら、障がい者の生涯学習に関する講座を実施するなど講座の内容を充実するとともに、社会教育主事・社会教育士の養成に向けた取組を進める。

②県立長野図書館のサービス・情報資源のデジタル化推進
市町村と協力して「市町村と県による協働電子図書館“デジとしよ信州”」の運営・充実を進めるほか、県立長野図書館の専門書・学術書の電子書籍閲覧サービスの充実を図るなど、提供するサービスや情報資源のデジタル化推進を図る。

③少年自然の家の利用促進
自然体験活動・野外教育、環境教育等の関係課と連携し自然の家の利用促進を図るとともに、指定管理者と連携し教育効果・専門性の高い体験プログラムの開発・普及や自主活動の充実を図る。

4 成果指標

(推移の凡例 ↗:改善 ↘:悪化 →:変化なし —:数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	生涯学習推進センター開催講座で募集人数を満たした講座割合	%	44	26	↘	45	↗	47	未達成	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になったことや、オンライン・YouTubeを有効活用することでR4年度より参加しやすくなると考えられるため、前年と同程度の値を設定した。	
②	市町村と県による協働電子図書館の利用登録者数	人	—	10,780	↗	18,281	↗	21,100	未達成	サービス開始3ヶ月目の1日平均登録者数をもとにして、以後も同程度の登録者数を維持することを目指して目標値を設定した。	
③	少年自然の家利用者数	人	14,667	18,637	↗	23,769	↗	28,000	未達成	新型コロナウイルス感染症の拡大により減少した利用者数を、コロナ禍前（令和元年度）の約80%まで回復することを目標	

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
5-4①	学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造	県民一人当たり年間貸出冊数(公立図書館・電子図書館)	冊	2021 (R3)	5.3	2022 (R4)	5.6	2023 (R5)	5.5	2027 (R9)	6
5-4①	学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造	社会教育士の数	人	2021 (R3)	12	2022 (R4)	33	2023 (R5)	50	2027 (R9)	110

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R5年度	106,907	281,589	3,344	391,840	244,300	380,898	25.0
R4年度	0	407,471	11,936	419,407	381,169	303,491	25.0
R3年度	87,778	382,110	△ 792	469,096	415,558	448,312	25.0

事業番号	15 08 02	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	社会教育を推進する施設の運営事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	生涯学習課	

7 主な取組実績と成果

<p>①生涯学習推進センターの講座を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参集による対面とオンラインのハイブリッド研修を積極的に行ってきた。地域づくり推進研修23講座、学校と地域の連携推進研修1講座、地域の教育力向上研修5講座、スポット研修9講座を実施し、延べ2,372人が参加した。 ・講座終了後、YouTubeを使って講座の後日配信を実施した。 <p>②県立長野図書館のサービス・情報資源のデジタル化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市町村と県による協働電子図書館“デジとしよ信州”」については、全国知事会による先進政策バンクにおいて「先進政策大賞」および「デジタル・ソリューション・アワード大賞」に選定されたほか、（一社）プラチナ構想ネットワークによる第11回プラチナ大賞において「優秀賞 地域パートナーシップ賞」を受賞するなど、事業の意義・協働のスキーム等が高く評価された。 ・デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用し、県立長野図書館所蔵資料306点の電子化を進め、デジタルアーカイブシステム「信州デジタルコモンズ」へアップロードし、誰もが信州の地域資源にアクセスできる環境を整備した。 <p>③少年自然の家の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが5類に移行したことで、コロナ禍で中止していた自然の家の「集団宿泊・自然体験」という特色を活かしたキャンプ事業（ふれあいキャンプ・リトルキャンプ・タイニーキャンプ）を実施することができ、参加者からは好評であった。 ・望月少年自然の家ではコロナ禍から開始した出前体験活動（学校に出向き、クラフト体験等を実施）の需要が増加し、閑散期を利用し活動回数を増加させている。また、阿南少年自然の家では、関心の高まっている防災に着目した防災キャンプを新規事業として実施した。両施設とも閑散期での家の活用方法を含め利用促進を図っているところ。
--

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	生涯学習推進センター開催講座で募集人数を満たした講座割合	R4年度推移	↘	R5年度推移	↗	達成状況	未達成
38講座を設定し、メールや会議等で講座紹介をしながら募集をかけた。どの講座もオンライン・参集・ハイブリッド開催による工夫をしたが、募集人員の50%程度にとどまる講座もあり、目標値には届かなかった。							
指標②	市町村と県による協働電子図書館の利用登録者数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	未達成
より充実したサービスの提供を図るため、全市町村と県により構成される「市町村と県による協働電子図書館運営委員会」において、登録方法の改善や広報ツールの作成などを行い、各市町村において展開することによって利用登録者数も伸びてきたが、目標値には届かなかった。							
指標③	少年自然の家利用者数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	未達成
令和5年5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、学校行事や自主事業における利用者数も回復基調となったが、新型コロナウイルスをきっかけに当施設を利用していた県外学校が地元利用に変更するなどの学校行事の形態に変化がみられること、また修繕のため休館とした期間があったことから、目標値には届かなかった。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布や関係機関へのメール、会議等での講座紹介を積極的に行いながら、参加者を募ってきたが募集人員を満たした講座数を大幅に増やすことができなかった。講座内容等の工夫が必要である。 ・重点取組事項である「学校教育との連携」「読書バリアフリーのさらなる推進」「地域資料の充実」に関しては検討チームを作り、着実に成果を上げてきているが、一般の利用者に向けた広報も継続して行っていく必要がある。 ・少年自然の家利用者数については、新型コロナウイルスをきっかけとした学校行事の実施形態の変化等により子ども達の平等な自然体験活動の機会が減少し、家庭環境による体験格差が懸念されている。自然体験活動は子ども達にとって必要不可欠であり、大人にも必要であるというご意見も踏まえ、多くの人々に豊かな自然環境を有した当施設を知ってもらうこと、自然体験活動を提供することか課題となっている。
(2) 事業改善の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・参加したくなるような講座内容（講座名・講師・会場など）や日時、開催方法（参集・オンライン・ハイブリッド）等の工夫を図り、参加者増に努めていく。 ・市町村と協力して、様々な場面で活用できる広報ツールの作成等を行うなど、サービスの存在や概要の周知に努めていく。 ・少年自然の家利用者数については、指定管理者と連携し、当施設について周知に努めるとともに自主事業の充実を図っていく。

事業名	社会教育を推進する施設の運営事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	生涯学習課
-----	--------------------------	----	----------	-----	-------

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	生涯学習推進センター事業費		11,578 千円	11,974 千円	12,727 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	指導者養成等の研修事業	直接	地域や市町村の生涯学習の振興や生涯学習による地域づくりを支援するための人材を養成するための講座を開催。 地域づくり推進研修23講座・学校と地域の連携推進研修1講座・地域の教育力向上研修5講座・スポット研修9講座		
2	施設管理運営事業	直接	生涯学習推進センターの管理や運営。 研修講座38講座開催		
3	社会教育主事講習（地方会場）実施事業	直接	国立教育政策研究所社会教育実践センターが実施する社会教育主事講習（文部科学省委嘱資格付与講座）の地方会場として講座の開催。 地方会場 1回実施		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
2	県立長野図書館事業費		245,811 千円	199,649 千円	201,695 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	電子図書館運営事業	直接	全市町村と連携しながら「デジとしよ信州」の運営及びサービス向上に取り組んだとともに、県立図書館の専門書・学術書の電子書籍閲覧サービスのコンテンツ充実を図った。 専門書・学術書の電子書籍閲覧サービスにおけるコンテンツ数 1,279点		
2	コンピュータ管理事業	直接	所蔵資料のデジタル化を行い、著作権の満了したものを公開を行ったほか、「信州・学び創造ラボ」のデジタル工作機器類を更新した。 「信州ナレッジスクエア」における「インターネットで閲覧できるコンテンツ数」 5,175点		
3	県立長野図書館管理運営事業	直接	トイレの床貼り換えや便器交換などの修繕を行い、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう努めた。 開館日数 283日		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
3	青年の家・少年自然の家管理運営費		190,923 千円	91,868 千円	166,476 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	少年自然の家運営事業（指定管理委託料）	指定管理	・指定管理者が青少年教育施設としての機能を維持・管理。 ・自然体験プログラム等の自主事業の開催。 自主事業（望月25回、阿南16回）		